

仙田先生 講演会感想

「子どもの成育環境」という視点に改めて考えさせられました。保育の研究や実践をしていると保育環境については考えることはありますが、それは子どもの動線であったり、子どもがいかにか落ち着くかやルーティンの獲得のことが中心でした。仙田先生は「子どもが環境の中でどのように過ごし、活動するのか」という環境の利用者である子ども目線に徹底されており、それを理論化した「遊環構造」は自身が無意識的に保育者（大人）目線から保育環境を考えていることを気付かせてくれました。

また、仙田先生は施設的环境についてのみならず、現代の子どもの置かれているITメディア化社会、自然体験の喪失、大人の不寛容、リスク犯罪の恐れなどの成育環境について警鐘を鳴らされており、広い視点から子どもの成育環境を考えていく必要性を述べられました。我々、保育関係者はどうしても保育という枠組だけで子どもを捉えがちですが、もう少し幅広い視野から、子どもの問題を検討しなければならないことを痛感しました。

いろいろと考え直す機会となった仙田先生のお話でしたが、そこには一貫して「こどもは親を選べないのと同様、生きる場を選べない。生きる場を用意する大人達の責任は重い。こども達の未来は日本の未来である。私達は、こどもを第一とする社会を築かなければならない」という信念に裏打ちされていたように感じました。幼年教育の研究や実践に関わる身として、仙田先生の研究やお話もさることながらそのような姿勢も大変学ばせて頂きました。

これまで勉強不足で「遊環構造」くらいしか理解していなかったのですが、もっと仙田先生のたくさんの著作を読み漁り、学びを深めたい！と思えるような素晴らしい講演会でした。

濱名 潔（博士課程後期）

